

宮川を楽しみ、宮川と共にある ～川にとんで行った青年時代～

大瀬忠義さん



1. 自己紹介

生まれは、昭和12年で78歳。職業は林業。木を伐ったり、架線（*1）を取ったり、木材を運んだりという仕事をしてきた。25歳の時には大型自動車免許を取って、トラックを運転して木材を三瀬谷や松阪に運んでいた。5時頃に仕事から帰ってきたら川にとんで行って、家に居らんかったな。夏の事やと7時ぐらいまで川に行っとな。親は、今の家より少し上流ところで

豆腐屋をやっている、今の古ヶ野に引っ越して来たのは、小学校3年生ぐらいだったが、行っていた川は家の前の同じところ、もう他所（よそ）に行ってもよう捕らんし、自分の巣って言って得意なところがあるやんか、そんなもんで、そこばかりしか行かなかったな、昔から。川にも縄張りみたいのがあって、権利とかではないが、先人が居ると行きにくいもんでさ。

（*1）山の中に張ったワイヤーでの木材の収集方法

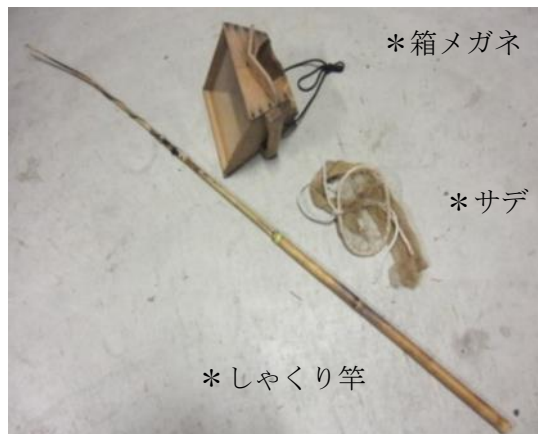
2. 宮川の伝統漁法“しゃくり”（*2）

昔の川は今と変わって水が多かった、古ヶ谷出会いの瀬も水が多くて越せなかったで、小さいときに遊びに行ったのは、大方、谷だったな。

古ヶ谷という谷に、アメゴ（アマゴ）がようけ（たくさん）いたので、小学校の時分からようしゃくりに行った。アメゴは、なかなかしゃくらせてくれへんもんでな、背中の方は、結構皮が固いもんで、腹の方からそっと持って行って腹の柔らかいところに引っ掛ける。アマゴは活かしたまま持ってきて、うちで飼っていた。エサをやると大きくなるもんで楽しかった。



*アメゴ（アマゴ）



*箱メガネ

*サデ

*しゃくり竿

本流のアユのしゃくりは勇気さえあったらいつからでも行けた。中学生頃から始めた。あの頃は、人間がようけおって誰でも教えてくれた。行くと必ずアユがおるところがあるんや、捕ってきても、また、あくる日にはおる、やっぱり魚も住みやすいところがあるんやな。最初は箱メガネだった、くわえてあのきつい瀬でも流れてしゃくった。きつい泡とんぼ(*3)へ入ってってき、流れに逆らって立ってんのもいっばいぐらいのところでも、アユ捕りをしおったでな。それも今やったら水中メガネでええけど。前は、箱をくわえてき、水の流れに逆ろうて、もう泡が流れこむもんで見にくくてな。水中メガネちゅうと頭をずーと突っ込んでってするもんでええが、箱メガネは、潜るわけいかんもんでな見にくかったな。あの時分のアユは、だいたい、こういうところ逃げ込んだら安全やっちゅうことわかってたもんで、泡とんぼの中に入っていきおったな。泡とんぼの中で、もうたり(舞ったり)なんかしておるけどな、それで、だいたい勘で引っ掛けよった。“ひっかいてみよう！”って、ひっかいたらかかることもありよった。

あの時分はみんな祭りみたいになって行とった。解禁日は特に朝早く未明から行った。しゃくろうと思ったらなんつても捕りやすいよって、解禁日に行くのが一番いい。せやけど、解禁日以降になってくるとアユもなかなか賢くなってくるよってき。逃げてガマ(*4)の傍にしこる(*5)ならいいけど、石の間をふるふる〜としといて、それでひょーと行きよった。ふるるとしてると間に捕らな、もうチャンスはなかった。石の向こうに回ってて見えん奴でも上手な人たちは勘で合わせて捕りおったな。大きな奴はすばしっこくてな。今のアユから想像できないくらい、本当に大きかった。80目(*6)から90目くらいのポーと背中の盛ったすごいもんやった。一匹捕るとあ〜もう、やった！っていう感覚、満足感があつたでな。

川に行くときは草鞋やつたでな、草鞋は、ナメ(*7)の上に乗っても滑らんでな。ようけ使う人は一足背中においねて(背負って)行きおった。竿先に使うゴムの紐と草鞋がなければしゃくりにならなかった。

小さい頃は、ウエットスーツなんてもんありへんでな、糸のセーターを着てバッチも履いてしゃくりに行きよった。寒いもんで震って火を焚いてもらとって、大方、火にあたるとりよった。俺の最初に着たスーツはな 今みたいなのは違って、裏はなんもついとらん、つるつるのゴムのやつでのちょっとやそつとでは脱げんのやで、今は裏地がついとるけど、ゴムだけのやつやで、ペタッについて脱着がほんと一人ではできんで。あれはピチャットつくもんで温かったよ。あれ着たことによって釣果は増えたな。

(*2) しゃくり 竹竿の先に付けた一本針を魚の体に引っかけて捕る漁法。

(*3) 泡とんぼ 泡の立つ激流

(*4) ガマ 岩のすき間、窪み、穴

(*5) しこる 逃げ込んで動かない。

(*6) 80目 約300g (1匁=3.75g)

(*7) ナメ アユが食べる岩の表面に生えたケイ藻類。

3. ウナギ捕り“差し込み”

ガマの中にて、竹の棒なんかで、エサをずーと差し込む。差し込みの仕掛け（*8）には石をつけるところがあるので、石つけて置いておく。明るく朝まで置いておきおった、入れた時の状態はさ、糸がたるんだるやんか、せえけどかかっているやつはなピーンッと張った。夕方掛けといて朝上げに行くと、それがが楽しみやったんさな。



* ウナギの差し込みの仕掛け

大体、良いところはわかるとでな、最近は、だいぶ荒れてもうたんでわからんけど、昔は決まっとたもんな、どこの穴がええ穴とか。去年はこの穴で捕ったんで今年も捕れるやろ、と言ってやりおった。淵も瀬もどちらも良かったなあ。深いところは大きな奴がおった。仕掛けは、30本ぐらい仕掛けた。多い時で50本も60本もつけよったよ。70本ぐらいつけたこともある。もう仕掛けた場所を忘れてしまう、目印がたよりやな、あんまり遅くなってくると、差し込みなんかやとれんもんで、ここら良いとこやなと思ったら、ポーんとほって帰ってきた。暗くなるまで差し込みしよった。帰りが、遅くなったときは、早よかけたやつはもう食いついとった。70本からつけようと思うと、どうかすると500m以上歩きよったな。

50本つけて、10本ぐらいは捕ったことがあった、二割やが。ちっちゃくてもみんな持ってきよった、たまってくのが楽しみやった。飼うとくことが楽しみで捕ってきた、せやで水槽を覗いたらうようよしよった。

ズガニもよく捕った、わしのやる差し込みってのは、カニの穴とウナギの穴を間違えて差し込んでしまうとカニが先とって食べてしまうもんでな。カニはかなわない、針ごと切って持って行ってしまふ。大きなカニもおった。カニの巣は一見したら分かりおった、新しい砂を口に掻き出してきてな、カニが中に入っていくので。ウナギは、砂も何も出さへん。カニは巣の前に砂を盛っとりおった、そんなところにエサを放り込んでおいてもウナギが掛かることもあった。

古ヶ渚では、はえ縄（*9）を舟でやりおった。網の始めをたぐるとわかる、かかるとときはちょっと触るとふわ〜と手ごたえがある。大きなものがかかったこともあった。

ウナギ捕りは、子どもの頃からやっていた。3月下旬頃になると、川でなコロコロ〜て蛙が鳴く。あれが鳴きだしたら、夜づけ（*10）をしてもええっていう、ウナギが捕れるという合図、あれが鳴き始めたらみんな夜づけをした。

（*8）差し込みの仕掛け 凧糸を使い作られ、針の少し上の部分で取り外せる仕組みになっている、また針の反対側の糸の端は、輪になっていて重石の石を縛りつける。

（*9）はえ縄 漁業に使われる漁具の一種。1本の幹縄に多数の枝縄（これをはえ縄と呼ぶ）をつけ、枝縄の先端に釣り針をつけた構成となっている。

（*10）夜づけ 夜間にうなぎなどを捕る漁法の総称。

4. 差し込みのエサはドジョウや切り魚

夜づけのエサとして、イシャド(カワヨシノボリ)よりも釣果がええのはドジョウだった。足で追って三角形の網で捕った。向うに受けといてな、足元の石を足で起こしたりしてな。ドジョウはしゃくったり、小さいタモ作って捕ったりもしよったよ。タモですくえた、箱メ



*三角形の網

ガネで覗いてぽっとタモを伏せると、うまいこと上にちょいと飛び上がった。地獄針という返しのついた針を竿を先に縛りつけて固定したもんで、チョーンとしゃくても捕りよった。しゃくつといて、空瓶の中に先を放り込んで捕獲しよってん。ようけ余ってくる時は飼うときよった。普段から溜めといて、ミミズでもそうやった。70本も80本も夜づけしようと思ったら一遍にはよう捕らんよってさあ。

エサとして使ったドジョウはアジメ(アジメドジョウ)。

下流の方行くとタドジョウってのもおるが、ちょっと大きいもんでな、エサには向かんのや。ウグイでも小さい奴をさ、三つか四つに切ってそれで夜づけのエサにも使いよった。アユはええけどさあ、傷みやすいもんで、よっぽど夕方、遅うにつけてするんだったら良かったけどさ、あんまり早くつけるとウナギが出てくる前に腐ってしまうもんで、あんま切って使わなかったけど、なかなか捕れないウナギはアユを使いよった。ウグイやとか、腐りにくいエサは、朝まで置いてもどうこうないちゅうてよかったな。シラハエも案外傷みやすい魚でな。ネギッチョ(カワムツ)がよかったねん、ネギッチョのエサは、食いついたら獲物が大きかった。

谷にするんやったら、青ミミズを7か8つに切って使った。土用時分に良く出てくる。それを本流で使うと小魚がとってしもってな、大将がくるまで残っていない。本流は、ドジョウや切り魚やなやっぱり。

5. 仕掛けを使った魚捕り“モウジ”(*11)

子どもの頃、モウジとか作ったりしよった。丸い小さいのを作って、川の瀬に下流側を広げた魚道みたいの作って、網の所だけせもうしといて置いといたると、そこに集まってきて入ってきよった。ええ道を作ったたら、どんどん集まってきてな。仕掛けるのは、春先から夏にかけてやな。一週間ぐらいの単位であげよったな、いろんなものが入ったりよったよ、イシャドばかりじゃなくてカブ



*モウジ(*11)

(カジカ)とかさ。モウジの形は、個人の作り方によって違った、真ん中は膨らませて作れって事は言いおったわ、一緒なんやけどな理屈は。カケゴ(*12)は、ウナギの場合は、2段になつとるでな。長いやつと短いやつ。カケゴを作るのが難しくてな、あの外側の短いやつはええんさ案外簡単で、厚い竹でええもんで。内側にあるもんが、長く



*ウナギモウジ

て最後は閉じるような形で納めておかんならんで、最後が狂うとったら逃げてしまうやろ。最後は、ぴしゃっとひつついていてもいいんさ、入っていくときは開くように薄〜くなつとるで、ウナギがしゅると入っていける状態にしておく。せえけど作り方が悪いと開いとつたりなんかして逃げるのがあった。せやで、内側のカケゴを作るのは結構神経使いよつたな。ちょっと川が濁ってきてな、ちょっと水が出てきた時分には、よう入ったことがあった。モウジの中がもういっぱいになってきてな、そん中で泡吹いておるんや。

ウナギモウジは、結構流れのある所でもよかった。座りのええように整えて、横に石を並べて、上にはモウジが流れていかへんように大きな石を乗せる。モウジを置く向きによって入る入らんが随分変わってくる。横向いておつたら絶対入らんから、水の流れに沿って伏せておく。口は下さ、水に逆ろうたら絶対あかん。モウジは、毎朝見に行く。捕れているかは上げな分からんから一遍あげて、また場所替えてまた次の晩するようなことやったな。仕掛けるのは秋口やな。

エサは、竹の棒にミミズを 10 匹か 20 匹か挟んで、モウジの一番奥に止めとく。それにおびき寄せられて入ってくる。麦わらミミズってゆうて縞のあるミミズ、普通のミミズじゃなく、縞のあるやつ。だいたい大きさは決まるとる、15 センチぐらいの長さで体の全体に縞がある。

モウジを仕掛けるのが深いところだったら、横に鉄の棒巻かせたりした。そのまま沈めんと柴（*13）を周囲に付けたって、これがモウジだってわからんようにしといて沈めたりしよつたな。目印に紐つけといて上にちっさい棒でも浮かしておくんさ。

秋になってくると「くだりモウジ」ちゅうのをした。下ってきた奴を大きな口で受けるように作った、下りモウジは、流れの一番きついところに掛けるんや。あれはだいぶ前で、マスなんかがおるときの話だが、下ってきたマスや大きなアマゴなんか下るのを捕った。モウジの全長は 2m ぐらいあった。

つけビン（*14）もした。ハエやウグイを捕った、エサは糠を炒って使った。味噌も入れおった、そうするとドロチョ（アブラハヤ）がよく入った、ドロチョは谷に行くときよくいる。つけビンは、中学校時分に良くしたが、大人になっても夜づけのエサを捕るのに使った。夜づけのエサは、イシャドでもいいが、本当はドジョウがええんやけど、簡単には捕れない。

（*11）モウジ 魚取りの道具。竹製で魚が入ったら出にくい仕組みになっている。

（*12）カケゴ モウジの入り口に付ける先を窄めた筒。一度通ると戻れない仕掛け。

（*13）柴 葉の付いた小枝

（*14）つけビン 透明容器の中にエサを入れ、水中に沈め魚等を捕る仕掛け。

6. 子どもの釣り“カンパチ（ナマズの仲間）釣り”

子どもの時分にはメメス（ミミズ）を持ってって、畑にいるのを短く切った。ようけおつてな釣るのが趣味やったな、面白いんやな、カンパチを釣るのが。一匹釣れたら、もう何匹とおんなじ穴から出てきよつた。大きな岩、ガマがあるやろ、そこらの前にエサを垂すと、しゅーと出てきよつた。いくら釣っても釣っても本当に随分一晚で釣りよつたな。まあドロッチョもそやけど。子どもの時分なもんで、竿といってもええ竿はないので、そこらいつて

竹伐ってきて作ってやりよった、どんな竿でも良かったんや。

7. 春に漁“つきウグイ（*15）”

つきウグイも投網を使ってよう捕った。使う投網は頭が三角になっていて、投げると丸くなるやつ。まず、ウグイの産卵場所を作った、今は河床が上がって来てるで下から細かい石があるけど、あの時分は少し掘ったら岩盤だったで、初めはちょっと荒い石を入れてだんだん細かいのをに入れていった。大体、つきそうな所にはついた（ウグイが産卵しに集まってきた）、こちらも考えて狩猟のしやすい場所に作った。多づきするとたたみ二枚敷きとかに、それも層になって何段にもついた。上から見ると真っ黒になつとんのな、塊になって。それを網を持ってって、がば一っと捕ると、100匹ぐらい捕れよったな。それまた、2遍目、3遍目と固まってくるにつれて、みんなが取り合いしよった。変わり交代に捕っとった。砂やら石やら運んで川をみんなで綺麗にしとるやろ、その作業をした人らが変わり交代に網を投げ入れる。何回、何回しても黒うなってきた、上から見とって「あ！集まってきたにや」つうもんで捕りに行った。捕れるときはもう一千匹ぐらい捕れよった。その頃のウグイは、オシタ（オス）は、チチ（精子）持って、メスは、もう卵ばっかでポンポンでな、ワタを抜かんとそのまんま串刺して焼きおった。卵が出てしまうもんでな、腸（ワタ）取るんでも、ちょっと切って抜いた。ウグイを食べるときは、煮つけよったな。焼くのも美味しかったな、案外と。焼きたてを食べるのがうまかった。串に横に10匹ぐらいを刺しおった、一本の串をちょうどウグイの頭から1/3ぐらいのところ。しっかり焼けないうちに、動かすと回りをよった。昔やで、ヒノキやナンテンの葉で包んだり、ちょっと飾って使いもんにしよった。時期になると、自分の兄弟や町に行つとる人に贈ったけど今はそんなことせん。

（*15）つきウグイ ウグイが遡上し、産卵場所に群れて集まること。3月末～5月